

2021年9月12日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第64巻第24号(通算3252号)  
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072  
大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10  
TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

主任担任教師・牛田 匡 牧師  
担任教師・水谷 憲 牧師  
隠退教師・小林 達夫 牧師

# しゅうほう 週報

教会標語

かみさま ひと とち  
神様がすべての人と共におられる  
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)  
<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027  
kyuho-church@koinonia.or.jp

郵便振替：00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」  
【集会案内】こどもの礼拝：毎日曜 10：15-10：30 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝：毎日曜 10：30-11：30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

この希望が失望に終わることはありません。私たちに与えられた聖霊によって、  
神の愛が私たちの心に注がれているからです。(ローマの信徒への手紙 5：5)

## せいれいこうりんせつ だい しゅじつれいはい 聖霊降臨節 第17主日礼拝

れいはい  
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも  
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしょうめつ  
前 奏 (黙 禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まねき ことば しへん へん せつ  
招きの詞 詩編 15編 1-5節

さんびか ばん ばん きょうだんさんびかいいんかい  
賛美歌 21-211番「あさかぜしずかにふきて」(©教団讚美歌委員会)

せいしょ ふくいんしょ しょう せつ  
聖 書 マタイによる福音書 18章 21-35節

いの  
お 祈り

さんびか ばん にほんきりすときょうだんしゅつばんきょく  
賛美歌 21-444番「気づかせてください」(©日本基督教団出版局)

メッセージ 「7の70倍までもゆるせ」 水谷 憲 牧師

さんびか ばん う ひと  
賛美歌 21-486番「飢えている人と」(©JASRAC)

しゅいの ばん てん わたし ちち きょうだんさんびかかいていいんかい  
主の祈り 21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

ささげもの  
献 げ 物 (\*)

はけん ばん かみ めぐ う せつ  
派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅくふく みずたに けん ぼくし  
祝 福 水谷 憲 牧師

こうそう ばん ちよさくけんしょうめつ  
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

ほうこく ページ さんしょう  
報 告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\* 「献げ物 (献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ ようい かた ささ  
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 15 編 1-5 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

- 1 賛歌。ダビデの詩。／主よ、誰があなたの幕屋にとどまり／  
聖なる山に宿ることができるのでしょうか。
- 2 それは、全き道を歩み、義を行い／心の中で真実を語る者。
- 3 舌で人を傷つけず／友に災いをもたさず／隣人をそしることもない。
- 4 彼は主の目に蔑まれる者を退け／主を畏れる者を尊ぶ。／  
不利益な誓いでも翻しはしない。
- 5 利息を取って金を貸さず／賄賂を取って罪なき人を苦しめない。／  
これを行う人はとこしえに揺らぐことがない。

聖書 マタイによる福音書 18 章 21-35 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

21 その時、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、きょうだいが私に対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」<sup>22</sup> イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか 七の七十倍まで 赦しなさい。<sup>23</sup> そこで、天の国は、ある王が家来たちと清算をしようとしたのに似ている。<sup>24</sup> 清算が始まると、一万タラントン借金している家来が、王の前に連れて来られた。<sup>25</sup> しかし、返済できなかつたので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。<sup>26</sup> 家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返ししますから』と懇願した。<sup>27</sup> 家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、借金を帳消しにしてやった。<sup>28</sup> ところが、この家来は外に出て、百デナリオン貸している仲間の一人に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。<sup>29</sup> 仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』と頼んだ。<sup>30</sup> しかし、承知せず、行って、借金を返すまでその人を牢に入れた。<sup>31</sup> 仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛み、主君に一部始終を報告した。<sup>32</sup> そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不届き者。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。<sup>33</sup> 私がお前を憐れんでやったように、お前も仲間を憐れんでやるべきではなかつたか。』<sup>34</sup> そして、主君は怒って、借金を全部返すまで、家来を 拷問係 に引き渡した。<sup>35</sup> あなたがたもそれぞれ、心からきょうだいを赦さないなら、天の私の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」

(脚注 a：別訳「七十七倍まで」、b：別訳「牢役人」)

## 《先週のメッセージより》9月5日 聖霊降臨節第16主日礼拝

「神は小さくされた者たちの輪の中に」

牛田匡牧師

聖書：マタイによる福音書 18章 12-20節

今回のお話は「迷い出た羊のたとえ」です。群れから迷い出て、見失ってしまった羊を、無事に見つけ出して喜んだというお話で、「当たり前」と言えば「当たり前」のお話です。しかし、今から約2000年前のガリラヤ地方の農民たちは、このお話を聞いて、何を考えたでしょうか。このお話の要点は、「見失ったものを見つけるまで探すこと」と「見つけたら、皆でともに喜ぶ」ことの2点だと考えられますが、そんな「当たり前」のことが、当時の人々の間で失われつつあったからこそ、イエス様はこのお話をされたのではないかと考えられています。なぜなら、ローマ帝国の植民地支配下で、農民たちの間でも格差が広がり、大多数の農民が貧民化・奴隷化して行っていたからです。そのために誰かが困った時には助け合い、喜びは皆で分かち合うという、「当たり前」の伝統的な共同体意識も、失われつつありました。

先の見えない抑圧状況が続く中、人々の心は狭くなり、横のつながりもバラバラになって行く中で、「あなたたちは『迷い出た一匹』『失われた一人』を見捨てていないか」と問いかけ、仲間たちとのつながりが失われないように、という思いがあったのではないのでしょうか。自分たちが一生懸命に取り組んでも、なかなか目に見える成果が出ない。それでも諦めることなく、仲間たちと一緒に取り組んでみる……。自分でも無力だと感じているような私たちだけでも、二三人が集まって協力し合う中に、「私もいるよ。一緒にいるから大丈夫。諦めないでやってみて」と神様は言って下さいます。

神様は小さくされた者たちの輪の中に共におられ、それらの手を通して働かれます。今、このコロナ禍の中を生かされている私たちは、どこに目を向け、何を大切にすればよいのでしょうか。日に日に感染者は増え続け、周りでも感染してしまい、「どうしようか」「困った」という声も聞かれています。そんな中、私たちには一体何が出来るのでしょうか。出来ることは何もないようにも感じてしまいます。何をしたらよいのか、明確な答えは分かりません。ですが、私たちは諦めません。神様は小さくされている人々の苦しみを最優先される方です。そしてそのような人たちが集まる輪の中に、共にいてくださいます。私たちは今日も、その神様から力と励ましを与えられて、ここから歩み出して行きます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



